

世界史

〔 I 〕 次の文章を読み、設問 1 ～ 3 に答えなさい。 (50点)

オリエント文明の影響を受けて、前2000年ごろから、クレタ島では複雑な宮殿建築が生まれたが、この文明を築いた人々の民族系統ははっきりしない。ギリシア本土では前1600年ごろから巨石城郭に囲まれた宮殿を中心とする小王国が建てられていたが、前1200年ごろには、「海の民」などの民族の移動のなかで滅亡した。

前8世紀ごろに、ギリシアでは、ポリスとよばれる都市国家が各地で形成されるようになった。ギリシア人はポリスごとに対立・抗争をくりかえし、一つの勢力にまとまることはなかったが、共通の言語と文化をもち、同一の民族としての意識を保ち、のちに異民族をバルバロイとよんで区別するようになった。

イタリア半島では、ギリシア人の影響を受けて (a) が多数の都市国家を築き、同一の言語や宗教をもちながら分立・競合していた。都市国家ローマは、(a) の影響のもとで、イタリア半島中部に住んでいた (b) の一派によって、ティベル (テヴェレ) 河畔に建設された。ローマは (a) の王の支配下に置かれたが、前6世紀には王を追放して共和政となった。ローマでは貴族と平民の身分差があり、最高官職で任期1年の2名の執政官は貴族から選ばれた。非常時には、一人で全権を掌握できる独裁官が指名された。平民は全市民による民会には参加できたが、政治的な影響力は限られていた。

中小農民を主とする平民は、重装歩兵としてローマの領土拡大に貢献したために、不平等の是正を求める闘争が起こった。前5世紀はじめには元老院や執政官の決定に拒否権を行使できる平民出身の護民官と、平民だけの民会である平民会が設けられた。その後、執政官のうち一人は平民から選出することが定められた。さらに、平民会の決議が元老院の許可なしに全ローマ人の国法となることが認められ、平民と貴族は法律上では平等となった。しかし、上層市民が貴族とともに新しい支配層を形成し、彼らが引き続き政権を独占した。

ローマは前3世紀前半にはイタリア半島全体の覇者となり、征服した諸都市との間に、それぞれ内容の異なる権利や義務を定めた同盟関係を締結し、被支配者が団結して反抗することを防いだ。また、服属した住民の一部にローマ市民権を与えて、支配下においた。

その後、ローマは、西地中海域の覇権をめぐって（ c ）が建設した植民都市カルタゴとの間で3度にわたるポエニ戦争を引き起こした。前2世紀半ばにはカルタゴを滅亡させ、さらに、マケドニアとギリシア諸都市を支配下におさめ、前1世紀には地中海を内海とする広大な領域を支配するようになった。

ローマは、イタリア半島以外の征服地を属州として直接支配した。属州統治の任務を負った元老院貴族や属州の徴税請負人は、赴任地での収奪によって利益を上げ、大土地所有者となった。他方、ローマ軍の中核を担っていた中小農民のなかには、長期の戦争に疲れ、農地も荒廃して没落し、無産市民となって首都ローマに流入する者もあらわれた。

前2世紀後半には、この状況を改革しようとする動きもあったが、有力者の反発で失敗した。これ以降、元老院の権威を尊重する閥族派と民衆の支持を基盤とする平民派が対立し、およそ100年にわたって内乱が続くことになった。前1世紀前半には、（ d ）が閥族派の、（ e ）が平民派の代表的な人物として、それぞれ私兵を率いて対立した。その間、イタリア半島の同盟諸都市がローマ市民権を要求して戦争を起し、奴隷の大規模な反乱も発生した。

こうした混乱が続くなかで、前60年に有力な3名の政治家が同盟を結び、元老院と対立する政治を行ったが、三者の協力関係は続かず、そのなかのカエサルが内乱を制して、社会の安定のための諸改革を断行した。しかし、彼は共和政信奉派によって暗殺され、再び政情は混乱した。カエサルの養子（ f ）は、カエサルの部下（ g ）と（ h ）と同盟を結んで閥族派をおさえた。その後、（ f ）は、エジプトの王朝の女王クレオパトラと結んだ（ h ）を破り、エジプトはローマの属州となった。ここに地中海は平定され、ローマの内乱は終息した。

（ f ）は尊厳者の称号を与えられ、ここから帝政時代が始まった。彼は、共和政の制度を尊重し、市民のなかの第一人者を自称したが、執政官や護民官の

権限をもち、軍の最高司令官でもあったので、強い権力を手中におさめていた。これより約200年間は空前の繁栄と平和が続いた。

属州が繁栄するにつれて、首都およびイタリアの優位は揺るぎはじめ、2世紀末になると各地の軍隊のなかから独自に皇帝をたてる動きがみられるようになり、3世紀には軍人出身の皇帝が次々とあらわれた。ササン朝ペルシアや（ i ）の侵入も度重なり、財政や経済も混乱して、社会不安が高まった。

この危機の時代に（ j ）帝は、2人の正帝と2人の副帝が帝国統治を分担する体制をしき、軍事や徴税の機構改革を行った。（ k ）帝はキリスト教を公認することで帝国の統一をはかるとともに、軍隊を増強して帝国支配を安定させようとした。また、彼は、大所領で働く自由身分の小作人の移動を禁止し、下層民の身分や職業を世襲化した。さらに、彼は、東方の重要性を踏まえて、ビザンティウムに元老院を新設し、新たな都の礎を築いた。こうして、都市ローマの共和政の伝統は崩れ去ったのである。

設問1 (a) ~ (k) に入る最も適切な語句を次の語群から一つ選び、
番号を解答欄 I - A に記入しなさい。

ただし、a, b, c, i は【語群1】から、d, e, f, g, h, j, k は【語群2】から、選びなさい。

【語群1】

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. アラム人 | 2. エトルリア人 | 3. ギリシア人 |
| 4. ゲルマン人 | 5. ソグド人 | 6. ノルマン人 |
| 7. ヒッタイト人 | 8. フェニキア人 | 9. ユダヤ人 |
| 10. ラテン人 | | |

【語群2】

- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| 11. アンセルムス | 12. アントニウス | 13. オクタウィアヌス |
| 14. カラカラ | 15. グラックス | 16. クラッスス |
| 17. コンスタンティヌス | | |
| 18. スキピオ | 19. スパルタクス | 20. スラ |
| 21. デイオクレティアヌス | | |
| 22. テオドシウス | 23. トリボニアヌス | 24. ネルウァ |
| 25. ハンニバル | 26. ポンペイウス | 27. マリウス |
| 28. ユスティニアヌス | 29. リウィウス | 30. レピドゥス |

設問2 下線部(A)に関連して、ギリシア文化に関する次の記述(a)(b)について、(a)(b)ともに正しい場合は数字1、(a)のみ正しい場合は数字2、(b)のみ正しい場合は数字3、(a)(b)ともに正しくない場合は数字4を、解答欄I-Bに記入しなさい。

(1)

(a) ホメロスは叙事詩『イリアス』や『オイディプス王（オイディプス）』を書いたとされる。

(b) 女流詩人サッフォーは『女の平和』をあらわした。

(2)

(a) ヘラクレイトスは「万物は流転する」と説いた。

(b) デモクリトスは万物の根源を原子と考えた。

(3)

(a) ヘロドトスは物語風の叙述でペロポネソス戦争について書いた。

(b) アリストテレスはイデア論を唱えた。

(4)

(a) ピタゴラス（ピュタゴラス）は地球の周囲の長さを計測した。

(b) エウクレイデスは平面幾何学を大成した。

設問3 波線部(ア)～(エ)に関する以下の問いに対する答えを、解答欄I-Cに記入しなさい。

(ア) クノッソス宮殿を発掘し、クレタ（ミノス）文明の存在を証明したイギリスの考古学者の名前を答えなさい。

(イ) このことを規定した法律の名称を答えなさい。

(ウ) 共和政末期に属州での徴税を請け負った身分（階層）の名称を漢字で答えなさい。

(エ) このような小作人は何と呼ばれたか、カタカナで答えなさい。

〔Ⅱ〕 イギリスの海外進出に関する以下の文章を読み、設問1～3に答えなさい。
(50点)

イギリスは、1600年、東インド会社を設立し、アジア進出を本格化した。東南アジア地域においては、1623年の を機に、(a) によって一時その勢力を駆逐されたが、18世紀半ば以降、再びこの地域の植民地化をすすめた。イギリスはインドから中国にいたる航路の中継点としてマレー半島の (b) とシンガポールを獲得した。1824年には (a) と条約を結び、マレー半島をイギリス、スマトラを (a) の勢力範囲と認めあった。イギリスは1826年、シンガポール・マラッカ・(b) を海峡植民地として成立させ、そこから支配をのばして20世紀初めまでにマラヤ(英領マレー)を完成させた。マラヤでは、⁽¹⁾プランテーションが大いに発達した。ビルマでは (c) 朝が勢力を拡大していたが、イギリスはそれを滅ぼし、1886年にビルマの全土をインド帝国に併合した。その後、ビルマでは、1920年代から民族運動が始まり、1930年、(d) が結成され、独立運動を展開した。

アフリカ大陸では、19世紀なかば以降、イギリス人の (e) らの探検によって大陸内部の様子がしだいに明らかになるにつれ、ヨーロッパ諸国の間で内陸部への関心が高まっていった。それとともに、領土獲得をめぐる列強間の対立が⁽²⁾激しくなり、1884～85年にはベルリン会議が開催され、利害の調整がはかられた。しかしこれで対立がなくなったわけではなく、イギリスとフランスのあいだでは⁽³⁾その後も利害が衝突した。イギリスがエジプトを占領するきっかけは、「エジプト人のためのエジプト」を唱えた軍人 の運動であった。スーダンでは、「救世主」を意味する を名乗る指導者を中心とする運動が1881年に始まった。イギリスは、軍人の (f) 総督がハルツームで戦死するなど苦戦を強いられたものの、1898年にこの運動の制圧に成功した。

南アフリカでは、17世紀以来、(a) 人植民者の子孫が、先住民を支配してケープ植民地を築いていたが、ナポレオン戦争以後、イギリスがそこを支配するようになった。これをきらって北方に移住したアフリカーナー(ブール人)は、先住民から土地を奪い、19世紀なかばにトランスヴァール共和国および

(g) をたてた。イギリスとアフリカーナーの対立は、トランスヴァール共和国や (g) で産出される地下資源としての金や (h) をめぐって、さらに深まった。ケープ植民地首相をつとめたイギリス人の [エ] は、アフリカーナーと対決しつつケープ植民地の北方に勢力を広げ、1895年にローデシア植民地をたてた。さらにイギリスは1899年、南アフリカ戦争を開始したが、予想外の苦戦のすえ、1902年によりやく勝利をおさめた。この戦争の結果、1910年に南アフリカ連邦が成立した。⁽⁴⁾

第二次世界大戦後、イギリスはその植民地を徐々に失っていく。東南アジアでは、イギリス統治下にあった [オ] が1957年に独立した。[オ] は1963年に、北ボルネオとシンガポールとともに、マレーシアを形成した。アフリカでは、1957年に [カ] に率いられたガーナがイギリスから独立した。この勢いは、1960年に加速し、アフリカで一挙に (i) か国が独立を達成した。この年は「アフリカの年」と呼ばれる。また、白人が一方向的に独立を宣言していたイギリス支配下のローデシアでは、冷戦下に黒人による民族運動が激化したすえ、1980年にソ連や中国の影響を受けた黒人多数派支配が実現し、(j) がうまれた。

設問1 空欄（ a ）～（ j ）に入る最も適切な語句を次の語群から選び、
番号を解答欄Ⅱ－Aに記入しなさい。

【語群】

- | | | |
|--------------|----------------|------------|
| 1. アケメネス | 2. アチェ | 3. アユタヤ |
| 4. オランダ | 5. オレンジ自由国 | 6. クック |
| 7. クライヴ | 8. 阮 | 9. ゴードン |
| 10. コンバウン | 11. サレカット＝イスラム | |
| 12. ジャワ | 13. ジンバブエ | 14. 錫 |
| 15. スペイン | 16. 石油 | 17. ダイヤモンド |
| 18. タキン党 | 19. チャーチル | 20. 南西アフリカ |
| 21. バタヴィア | 22. ハノイ | 23. フランス |
| 24. ペナン | 25. ボツワナ | 26. ポルトガル |
| 27. マカートニー | 28. マニラ | 29. モザンビーク |
| 30. リヴィングストン | 31. リベリア | 32. ワフド党 |
| 33. 13 | 34. 17 | 35. 21 |

設問2 文中の ～ に入る最も適切な語句を、解答欄Ⅱ－B
に記入しなさい。

設問3 下線部(1)～(4)に関連する次の記述(a)(b)について、(a)(b)ともに正しい場合は数字1、(a)のみ正しい場合は数字2、(b)のみ正しい場合は数字3、(a)(b)ともに正しくない場合は数字4を、解答欄Ⅱ-Cに記入しなさい。

- (1) マラヤにおけるプランテーションについて。
 - (a) 主に生産されたのは茶であった。
 - (b) 多くのインド人が労働力として導入された。
- (2) ベルリン会議について。
 - (a) 列強間の対立激化の理由のひとつは、ベルギー国王のヴィルヘルム2世がコンゴ領有を宣言したことにあった。
 - (b) ベルリン会議の調整役を担ったのは、ドイツ宰相のビスマルクであった。
- (3) アフリカにおけるイギリスとフランスの衝突について。
 - (a) イギリスはアフリカ横断政策をとり、一方フランスはアフリカ縦断政策をとった。
 - (b) 1898年のファシヨダ事件以降、英仏両国の対立は激化の一途をたどった。
- (4) 南アフリカ連邦について。
 - (a) アフリカーナーは、指定された土地以外での土地取得を禁じられるなど、さまざまな差別を受けることになった。
 - (b) のちにインド独立運動の指導者となるガンディーは南アフリカで人種差別に反対する運動を行った。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、設問1～11に答えなさい。

(50点)

19世紀・20世紀の世界では、様々な「革命」が起こった。それは中東地域においても同様であった。オスマン帝国では、内部の諸民族の自立・独立の動きや、列強による干渉に対抗して、1830年代に司法・行政・財政・軍事の西欧化改革が始まった。⁽¹⁾ 1876年に大宰相（ a ）が起草したオスマン帝国憲法が發布され、翌年に最初の議会が開かれた。しかし、君主の（ b ）は、ロシアとの戦争を理由に議会を閉鎖し、憲法も停止して専制的な統治を行った。⁽²⁾ 専制に反対した知識人や将校たちは、1908年に「青年トルコ革命」によって立憲制を復活させた。しかし、オスマン帝国の政情は安定せず、第一次世界大戦の敗北による混乱の中で、軍人の（ c ）が1923年にトルコ共和国の建国を宣言し、「トルコ革命」と呼ばれる一連の改革を断行した。⁽³⁾

一方イランでは、18世紀末にテヘランを首都として（ d ）朝がおこったが、19世紀前半に、北方から進出してきたロシアと、カスピ海西側のコーカサス（カフカス）地方をめぐって争い、（ e ）条約によってロシアに領土を割譲した。ロシアは、カスピ海の東側でも南下を進め、19世紀後半に中央アジアのムスリム諸国家を保護国とし、あるいは併合した。⁽⁴⁾その後、ロシア革命を経て成立したソヴィエト政権は、ロシアの保護下・支配下にあった中央アジアの諸地域を複数の共和国に再編し、ソヴィエト [ア] 連邦（ソ連）に組み込んだ。

イランでは、19世紀をとおして進行したロシアとイギリスによる経済的支配の強化に対する反発や、専制的支配に対する批判⁽⁵⁾が高まり、社会的に不安定な状況が続いた。⁽⁶⁾そして第一次世界大戦が始まると、イランは実質的にロシアとイギリスによる占領下におかれ、戦後も混乱が続いた。この混乱の中で、軍人の（ f ）がクーデターで政権を掌握し、1925年に（ g ）朝を開いた。⁽⁸⁾イランは第二次世界大戦後の冷戦構造の中で、アメリカ合衆国の西南アジア地域における重要な友好国となり、アメリカ合衆国の支援を受け、潤沢な石油収入を用いて、「白色革命」と呼ばれる国王主導の近代化を強力に進めた。しかし、国王の専制に対する批判や、貧富の格差の拡大などに対する不満が国民の間に広まっていった。⁽⁹⁾

設問1 文中の(a)～(g)に入る最も適切な語句を次の語群から選び、番号を解答欄Ⅲ-Aに記入しなさい。

【語群】

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 1. アイグン | 2. アブデュルハミト2世 |
| 3. アブデュルメジト1世 | 4. イリ |
| 5. カージャール(ガージャール) | 6. キャフタ |
| 7. サファヴィー | 8. サーマーン |
| 9. スレイマン1世 | 10. セリム3世 |
| 11. セルジューク | 12. グレイオス1世 |
| 13. チャルディラーン | 14. トルコマンチャーイ |
| 15. ニザーム＝アルムルク | 16. ネルチンスク |
| 17. パフレヴィー(パフラヴィー) | 18. フセイン |
| 19. プレスト＝リトフスク | 20. ブワイフ |
| 21. ホメイニ | 22. ミドハト＝パシヤ |
| 23. ムスタファ＝ケマル | 24. メフメト2世 |
| 25. モサデグ(モサッデグ) | |
| 26. ラシード＝アッディーン(ラシード＝ウッディーン) | |
| 27. レザー＝ハーン | 28. ワッハーブ |

設問2 文中の空欄[ア]に入る語句を、漢字で解答欄Ⅲ-Cに記入しなさい。

設問3 下線部(1)の改革の呼称を、カタカナで解答欄Ⅲ-Cに記入しなさい。

設問4 下線部(2)について、「青年トルコ革命」の記述として正しいものを、次の1～4から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ-Bに記入しなさい。

1. この革命を主導した「自由将校団」のメンバーが、「青年トルコ人」と呼ばれた。
2. この革命によって、新憲法が発布された。
3. この革命では、オスマン主義に基づいた帝国臣民の統合が唱えられた。
4. この革命によって成立した政権は、やがて、オスマン帝国をムスリム（イスラーム教徒）中心の国家とする政策に転換していった。

設問5 下線部(3)について、「トルコ革命」に関する以下の文(あ)～(う)のうち、内容の正しい文はいくつあるか。正しい文の数を解答欄Ⅲ-Bに数字1～3で記入しなさい。正しい文がない場合は、数字4を記入しなさい。

- (あ) トルコ語の表記をアラビア文字からローマ字に改めた。
- (い) カリフ制を廃止した。
- (う) 女性参政権を認めた。

設問6 下線部(4)でロシアの保護国となったり、ロシアに併合されたりした国家として正しいものを、次の1～4から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ-Bに記入しなさい。

1. イル＝ハン国
2. カザン＝ハン国
3. クリム（クリミア）＝ハン国
4. コーカンド＝ハン国

設問7 下線部(5)の一環として、イギリスが、アメリカ大陸原産のある嗜好品のイランにおける独占利権を獲得したことに対して、イランの人々は、この嗜好品の不買運動を起こした。この嗜好品の名称を、カタカナで解答欄Ⅲ-Cに記入しなさい。

設問8 下線部(6)を背景として、1905年から1911年にかけて革命が進行した。この革命に関する記述X～Zについて、内容が正しい文の記号の組合せを、次の1～7から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ－Bに記入しなさい。

X この革命によって、議会が開かれた。

Y この革命によって、憲法が制定された。

Z この革命は、イギリスの軍事介入によって挫折した。

1. X

2. Y

3. Z

4. X・Y

5. X・Z

6. Y・Z

7. X・Y・Z

設問9 下線部(7)を背景として、1848年から1852年にかけて、ある新宗教の信徒たちがイランで反乱を起こした。その新宗教の名称を「～教」という形式で解答欄Ⅲ－Cに記入しなさい。

設問10 下線部(8)に関連した以下の文章の空欄 [イ] と [ウ] に入る語句の組合せとして、最も適当なものを次の1～4の中から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ－Bに記入しなさい。

共産主義革命が世界に広がることを警戒したアメリカ合衆国は、1940年代末から1950年代にかけて、ソ連を包囲するように世界の諸地域に軍事同盟を構築し、西南アジア地域においては、1955年に、トルコ、イラク、イラン、パキスタン、[イ] からなるMETO（中東条約機構）を発足させた。しかし、[ウ] ために、1959年にCENTO（中央条約機構）と改称された。

1. イ：アメリカ合衆国
ウ：イラクが革命を経て脱退した
2. イ：アメリカ合衆国
ウ：イランがイスラエルを支援する西側諸国に反発して脱退した
3. イ：イギリス
ウ：イラクが革命を経て脱退した
4. イ：イギリス
ウ：イランがイスラエルを支援する西側諸国に反発して脱退した

設問11 下線部(9)の状況を背景として、1979年に革命が起こった。この革命に関する記述X～Zについて、内容が正しい文の記号の組合せを、次の1～7から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ－Bに記入しなさい。

X この革命の影響で、第一次石油危機がおこった。

Y この革命によって、イラン＝イスラーム共和国が成立した。

Z この革命の後、イランはイラクに戦争をしかけた。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| 1. X | 2. Y | 3. Z |
| 4. X・Y | 5. X・Z | 6. Y・Z |
| 7. X・Y・Z | | |